

CASBEE® 京都-新築

評価ソフト(標準システム)

バージョン CASBEE京都-新築2018(v.1.0)
 ■使用評価マニュアル: CASBEE-京都-建築(新築)2018年版

1) 概要入力

① 建物概要

■ 建物名称	(仮称)元新道小学校跡地活用計画(歌舞練場・地域施設棟)	
■ 建設地・地域区分	京都市東山区宮川筋四条下る宮川筋四丁目306番 外15筆	6地域
■ 地域・地区	商業地域, 準防火地域、歴史遺産型美観地区	
■ 竣工年(予定/竣工)	2025年1月	予定
■ 敷地面積	2257.06	m ²
■ 建築面積	1715.63	m ²
■ 延床面積	5,106.17	m ²
■ 建物用途名	劇場、児童福祉施設、集会所 集会所,	
■ 階数	地上3F、地下2F	
■ 構造	S造	
■ 平均居住人員	491	人(想定値)
■ 年間使用時間	2,080	時間/年(想定値)

② 評価の実施

■ 評価の実施	2022年6月2日	実施設計段階
■ 作成者	大建設計 小林敬政	
■ 確認日	2022年6月6日	
■ 確認者	大建設計 岡本高典	
■ LCCO2の計算	標準計算	→LCCO2算定条件シート(標準計算)を入力

2) 個別用途入力

① 用途別延床面積

事務所	0.00	m ²	事務所		m ²
			官公庁		m ²
学校	0.00	m ²	幼稚園・保育園		m ²
			小・中学校		m ²
			小・中学校(北海道以外)		m ²
			高校		m ²
			大学・専門学校		m ²
物販店	0.00	m ²	デパート・スーパー		m ²
			その他物販		m ²
飲食店		m ²			
集会所	5,106.17	m ²	劇場・ホール	4030.75	m ²
			展示施設		m ²
			スポーツ施設	1075.42	m ²
工場		m ²	うち省エネ計画対象面積		m ²
病院		m ²			
ホテル		m ²			
非住宅 小計	5,106.17	m ²			
集合住宅	0.00	m ²	専用部		m ²
			共用部		m ²

② 住居・宿泊部分の比率

■ 病院の延床面積のうち、病室部分の床面積の比率	
■ ホテルの延床面積のうち、宿泊部分の床面積の比率	
■ 集合住宅の延床面積のうち、住戸部分の床面積の比率	0.00

CASBEE® 京都-新築

標準システム

■使用評価マニュアル: CASBEE-京都-建築(新築)2018年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-京都-新築2018 (v.1.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)元新道小学校跡地活用計画(歌舞練場・地域施設棟)	階数	地上3F、地下2F
建設地	京都市東山区宮川筋四条下る宮川筋四丁目306番 外15番	構造	S造
用途地域	商業地域、準防火地域、歴史遺産型美観地区	平均居住人員	491 人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,080 時間/年(想定値)
建物用途	集会所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2025年1月 予定	評価の実施日	2022年6月2日
敷地面積	2,257.06 m ²	作成者	株式会社大建設 小林敬政
建築面積	1,715.63 m ²	確認日	2022年6月6日
延床面積	5,106.17 m ²	確認者	株式会社大建設 岡本高典



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
BEE = 1.5 S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★	30%: ★★★★★ 60%: ★★★★★ 80%: ★★★★★ 100%: ★★★★★ 100%超: ★★★★★ 標準計算 このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです	

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
Q 環境品質 Q1 室内環境 Q1のスコア= 3.3	Q2 サービス性能 Q2のスコア= 2.9	Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア= 4.2
LR 環境負荷低減性 LR1 エネルギー LR1のスコア= 3.4	LR2 資源・マテリアル LR2のスコア= 3.5	LR3 敷地外環境 LR3のスコア= 3.2

3 設計上の配慮事項		
総合 宮川町のシンボルである歌舞練場大屋根のシルエットを継承しながら、各通りの特徴を踏まえた新たなデザインを取り入れることで、花街「宮川町」の象徴である歌舞練場にふさわしいシンボル性と現在の町並みとの良好な関係を有する計画としている。 災害時には避難所としても機能する多目的ホールを計画するなど、大雨などの災害時にも安全な防災拠点としての機能を果たす。	その他 計画地である宮川町歌舞練場と道路を挟んで隣接する新道小学校の敷地に、ホテル・地域施設・歌舞練場の3つの機能を整備し、一体的な街づくりを実現することで、「回遊性や賑わいを創出」とともに、花街宮川町の象徴である大屋根のシルエットを継承しながら、各通りの特徴を踏まえた新たなデザインを取り入れることで、花街「宮川町」の象徴である歌舞練場にふさわしいシンボル性と現在の町並みとの良好な関係を有する計画としている。	
Q1 室内環境 音環境については、内外騒音を分析予測し、開口部の遮音性能の確保と劇場用途に即した吸音材を配する遮音対策を行うことで、静寂度の高い室内環境を実現する。温熱環境については、適切な設備による制御を行うとともに、	Q2 サービス性能 建物維持管理が容易に行えるよう、窓の清掃性などのメンテナンス性に配慮した計画とし、サービス性能の向上を図っている。 また高耐候性や防かび性を有する仕上げ材を採用している。	Q3 室外環境(敷地内) 敷地内には緑地を設け、生物環境に配慮した計画としている。歴史遺産型美観地区に立地し、地元住民に親しまれていた既存建物の大屋根形状を踏襲した建物形態とすることで記憶の継承を行うとともに、底や素材によって建物カラー
LR1 エネルギー 高断熱・高气密性の確保を行い、建物外皮の熱負荷抑制を行うとともに、高効率設備機器を選定することで、省エネルギーに寄与する計画としている。	LR2 資源・マテリアル 節水器具やリサイクル材を採用し、省資源に寄与している。	LR3 敷地外環境 広報による通知を行い、公共交通機関の積極的利用を促進するとともに、自転車駐輪スペースを設置することで、温室効果ガスの低減に寄与している。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

1 建物概要			
建物名称	(仮称)元新道小学校跡地活用計画(歌舞練場・地域施設棟)	BEE	1.5 A ★★★★★
延床面積	5,106.17 m ²	使用CASBEE評価マニュアル CASBEE-京都-建築(新築)2018年版	
用途	劇場、児童福祉施設、集会所 集会所	使用CASBEE評価ソフト CASBEE京都-新築2018(v.1.0)	

2 重点項目への取組度	
キーワード	取組度
1 大切に使う	   
2 とともに住まう	  
3 自然からつくる	  

3 設計上の配慮事項とCASBEEのスコア			
1 大切に使う		合計点	30 /41
■長寿命化		合計点	13.8 /20
◇メンテナンスの容易性			
Q2/ 3.3.1 空調配管の更新性	スコア 3	◇物理的長寿命	Q2/ 2.2.1 躯体材料の耐用年数
Q2/ 3.3.2 給排水管の更新性	スコア 3		スコア 3
Q2/ 3.3.3 電気配線の更新性	スコア 5	特に無し	
Q2/ 3.3.4 通信配線の更新性	スコア 5	◇社会的長寿命	
Q2/ 3.3.5 設備機器の更新性	スコア 3	Q2/ 1.1.3 バリアフリー計画	スコア 3
(注)上記5項目のスコアの平均が合計点に加算される)		Q2/ 3.1.2 空間の形状・自由さ	スコア 4
特に無し		特に無し	
■省資源		合計点	15 /20
LR2/ 2.1 材料使用量の削減	スコア 2		
LR2/ 2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	スコア 3		
LR2/ 2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	スコア 5		
LR2/ 2.6 部材の再利用可能性向上への取組	スコア 5		
建材にはリサイクル材を使うなど省資源に寄与している			
◆独自加点項目		合計点	1 /1
LR2/ 2.1 材料使用量の削減	主要構造部が木造躯体である場合で、「持続可能な森林から産出された木材」を使用しており、うち地域産木材を使用している。	対象外	
LR2/ 2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	主要構造部に使用した「持続可能な森林から産出された木材」のうち、地域産木材を使用している。	対象外	
LR2/ 2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	「持続可能な森林から産出された木材」のうち、地域産木材を使用している。	0	
2 とともに住まう		合計点	23 /37
■自然とともに住まう		合計点	6 /10
◇自然を感じられる計画			
Q2/ 1.2.1 広さ感・景観	スコア 対象外	◇地域環境やコミュニティへの配慮	Q3/ 3.1 地域性への配慮、快適性の向上
Q3/ 1 生物環境の保全と創出	スコア 4		スコア 5
Q3/ 3.2 敷地内温熱環境の向上	スコア 2	LR3/ 2.2 温熱環境悪化の改善	スコア 3
敷地内に多くの植栽を設け生物環境の保全と創出に努めた		LR3/ 3.3.2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	スコア 3
		庇を設けるなど都市空間上のアメニティにおけるアメニティ向上を目指した	
■歴史とともに住まう		合計点	6 /10
◇歴史性への配慮			
Q2/ 1.2.3 内装計画	スコア 1		
Q3/ 3.1 地域性への配慮、快適性の向上	スコア 5		
歴史的な建築内部空間を保存、復元している			
◆独自加点項目		合計点	0 /2
Q2/ 1.2.1 広さ感・景観	京都重点項目による加点により、レベル5を超える。		
LR3/ 3.3.2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	格子状ルーバーや簾状スクリーンによりガラス面等の反射光を抑制している。または外壁に反射率の低い自然素材を採用している等の推奨内容の取組みを、1以上実施している。	0	
3 自然からつくる		合計点	19 /30
■自然材料の利用		合計点	9 /15
◇自然を感じられる計画			
Q2/ 1.2.3 内装計画	スコア 1		
Q3/ 3.1 地域性への配慮、快適性の向上	スコア 5		
LR2/ 2.5 持続可能な森林から産出された木材	スコア 3		
地域産木材の使用			
■自然環境の利用		合計点	7 /10
◇自然環境の向上			
Q1/ 3.1.1 屋光率	スコア 対象外	LR1/ 2 自然エネルギー利用	スコア 4
Q1/ 3.1.3 屋光利用設備	スコア 対象外	LR2/ 1.2.1 雨水利用システム	スコア 3
Q1/ 3.2.1 屋光制御	スコア 対象外		
Q1/ 4.2.2 自然換気性能	スコア 対象外		
トップライトを計画し、自然エネルギーを生かす計画とした			
◆独自加点項目		合計点	3 /5
LR2/ 2.5 持続可能な森林から産出された木材	「持続可能な森林から産出された木材」のうち、地域産木材を使用している。	0	
Q1/ 3.1.3 屋光利用設備	デザインされた格子状ルーバーやライトシェルフ、軒、庇等、推奨内容の屋光利用設備を採用している。	0	
Q1/ 3.2.1 屋光制御	デザインされた格子状ルーバーやライトシェルフ、軒、庇等、推奨内容の屋光利用設備を採用している。	0	
LR1/ 3 設備システムの高効率化	評価する取組みのうち、何れかの手法が採用されている。(但し、モニメントの計画を除く)	0	
上記の内容に加え、利用量が15MJ/m ² ・年以上となる場合。			
4 低炭素景観の創出に関する評価			
☐ Q1/3.1.3 屋光利用設備		☐ Q1/3.2.1 屋光制御	☒ Q3/1 生物環境の保全と創出
☐ Q3/3.2 敷地内温熱環境の向上		☐ LR3/2.2 温熱環境悪化の改善	☐ LR3/3.3.2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策
		低炭素景観	取組数 1/6項目
5 ライフサイクルCO ₂ とCO ₂ 削減率			
ライフサイクルCO ₂ (ライフサイクルCO ₂ 参照値)	78.41 kg-CO ₂ /年m ²	ライフサイクル	CO ₂ 削減率 +12.4%
CO ₂ 削減量	89.54 kg-CO ₂ /年m ²		
	-11.14 kg-CO ₂ /年m ²		
6 ウッドマイレージCO ₂ とCO ₂ 削減率			
ウッドマイレージCO ₂		ウッドマイレージ	CO ₂ 削減率 0%
CO ₂ 削減効果			

:「ウッドマイレージ計算書」から転

 :自由記述入力欄

CASBEE-京都-建築(新築)2018年版
 (仮称)元新道小学校跡地活用計画(歌舞練場・地域施設棟)

■使用評価マニュアル: CASBEE-京都-建築(新築)2018年

■評価ソフト: CASBEE京都-新築2018 (v.1.0)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	重点項目等	重点項目に対する全国版評価基準の見直し	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質								3.4
Q1 室内環境					0.40		-	3.3
1 音環境				4.6	0.15		-	4.6
1.1 室内騒音レベル			劇場客席NC≤35	4.0	0.40		-	
1.2 遮音			T-2以上	5.0	0.40		-	
1 開口部遮音性能				5.0	1.00		-	
2 界壁遮音性能(軽量衝撃源)					-		-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)					-		-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)					-		-	
1.3 吸音			天井、壁、床に吸音材を用いている	5.0	0.20		-	
2 温熱環境				2.7	0.35		-	2.7
2.1 室温制御				3.2	0.50		-	
1 室温				3.0	0.38		-	
2 外皮性能			日射遮蔽性能および断熱性能に配慮している	4.0	0.25		-	
3 ゾーン別制御性能				3.0	0.38		-	
2.2 湿度制御				1.0	0.20		-	
2.3 空調方式				3.0	0.30		-	
3 光・視環境				3.0	0.25		-	3.0
3.1 昼光利用				-	-		-	
1 昼光率	●自然	A(全国版準用)		-	-		-	
2 方位別開口					-		-	
3 昼光利用設備	●自然	B(推奨内容)		-	-		-	
3.2 グレア対策				-	-		-	
1 昼光制御	●自然	B(推奨内容)		-	-		-	
3.3 照度				-	-		-	
3.4 照明制御				3.0	1.00		-	
4 空気質環境				3.7	0.25		-	3.7
4.1 発生源対策				4.0	0.50		-	
1 化学汚染物質			建基法を満たし、かつ建基法規制対象外建材を使用	4.0	1.00		-	
4.2 換気				3.0	0.30		-	
1 換気量				3.0	0.50		-	
2 自然換気性能	●自然	A(全国版準用)		-	-		-	
3 取り入れ外気への配慮				3.0	0.50		-	
4.3 運用管理				4.0	0.20		-	
1 CO ₂ の監視				3.0	0.50		-	
2 喫煙の制御			全館禁煙	5.0	0.50		-	
Q2 サービス性能				-	0.30		-	2.9
1 機能性				2.4	0.40		-	2.4
1.1 機能性・使いやすさ				3.0	0.40		-	
1 広さ・収納性					-		-	
2 高度情報通信設備対応					-		-	
3 バリアフリー計画	●大切	D(独自基準)		3.0	1.00		-	
1.2 心理性・快適性				1.0	0.30		-	
1 広さ感・景観(天井高)	●とも	C(独自加算)			-		-	
2 リフレッシュスペース					-		-	
3 内装計画	●自然	D(独自基準)		1.0	1.00		-	
1.3 維持管理				3.0	0.30		-	
1 維持管理に配慮した設計			維持管理に配慮した取組み6つ	4.0	0.50		-	
2 維持管理用機能の確保				2.0	0.50		-	
2 耐用性・信頼性				3.1	0.30		-	3.1
2.1 耐震・免震・制震・制振				3.0	0.50		-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	0.80		-	
2 免震・制震・制振性能				3.0	0.20		-	
2.2 部品・部材の耐用年数				3.4	0.30		-	
1 躯体材料の耐用年数	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.20		-	
2 外壁仕上材の補修必要間隔				3.0	0.20		-	
3 主要内装仕上材の更新必要間隔				3.0	0.10		-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				3.0	0.10		-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔			主要な用途上位3種の2種以上にB以上を使用しE不使用	5.0	0.20		-	
6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.20		-	

2.4 信頼性	1	空調・換気設備			給排水・衛生における取組みが3つ	3.0	0.20	-	-		
	2	給排水・衛生設備				3.0	0.20	-	-		
	3	電気設備				4.0	0.20	-	-		
	4	機械・配管支持方法				3.0	0.20	-	-		
	5	機械・配管支持方法				3.0	0.20	-	-		
	5	通信・情報設備				2.0	0.20	-	-		
3 対応性・更新性						3.4	0.30	-	-	3.4	
3.1 空間のゆとり						4.0	0.30	-	-		
	1	階高のゆとり				-	-	-	-		
	2	空間の形状・自由さ	●大切	A(全国版準用)	壁長さ比率<0.3	4.0	1.00	-	-		
3.2	荷重のゆとり					3.0	0.30	-	-		
3.3 設備の更新性						3.4	0.40	-	-		
	1	空調配管の更新性	●大切	A(全国版準用)	ケーブルラックを用い仕上材を痛めることなく修繕可能 ケーブルラックを用い仕上材を痛めることなく修繕可能	3.0	0.20	-	-		
2	給排水管の更新性	●大切	A(全国版準用)	3.0		0.20	-	-			
3	電気配線の更新性	●大切	A(全国版準用)	5.0		0.10	-	-			
4	通信配線の更新性	●大切	A(全国版準用)	5.0		0.10	-	-			
5	設備機器の更新性	●大切	A(全国版準用)	3.0		0.20	-	-			
6	バックアップスペースの確保			3.0		0.20	-	-			
Q3 室外環境(敷地内)						-	0.30	-	-	4.2	
1 生物環境の保全と創出			●とも	A'(全国版準用)	敷地内に多くの緑化を設けている	4.0	0.30	-	-	4.0	
2 まちなみ・景観への配慮			○	C(独自加点) D(独自基準)	京都市における認定を受けている	5.0	0.40	-	-	5.0	
3 地域性・アメニティへの配慮						3.5	0.30	-	-	3.5	
	3.1	地域性への配慮、快適性の向上	●とも、 自然	A'(全国版準用)	歴史的な建築内部空間を保存、復元している	5.0	0.50	-	-		
	3.2	敷地内温熱環境の向上	●とも	A(全国版準用)		2.0	0.50	-	-		
LR 建築物の環境負荷低減性							-	-	-	3.3	
LR1 エネルギー							-	0.40	-	-	3.4
1 建物外皮の熱負荷抑制					[BPI][BPI _m] = 0.61	5.0	0.20	-	-	5.0	
2 自然エネルギー利用			●自然	A(全国版準用)	トップライト	4.0	0.10	-	-	4.0	
3 設備システムの高効率化			●自然	C(独自加点)	[BEI][BEI _m] = 0.83	2.8	0.50	-	-	2.8	
4 効率的運用						3.0	0.20	-	-	3.0	
	集合住宅以外の評価					3.0	1.00	-	-		
	4.1	モニタリング			3.0	0.50	-	-			
	4.2	運用管理体制			3.0	0.50	-	-			
	集合住宅の評価					-	-	-	-		
	4.1	モニタリング			-	-	-	-			
	4.2	運用管理体制			-	-	-	-			
LR2 資源・マテリアル							-	0.30	-	-	3.5
1 水資源保護						3.4	0.20	-	-	3.4	
	1.1 節水				節水コマなどに加えて省水型機器を採用している	4.0	0.40	-	-		
	1.2 雨水利用・雑排水等の利用					3.0	0.60	-	-		
	1	雨水利用システム導入の有無	●自然	A(全国版準用)		3.0	0.70	-	-		
	2	雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.30	-	-		
2 非再生性資源の使用量削減						3.7	0.60	-	-	3.7	
	2.1	材料使用量の削減	●大切	B(推奨内容) D(独自基準)	ビニル床材、点字タイル、磁器質タイル、地域産木材	2.0	0.10	-	-		
	2.2	既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.20	-	-		
	2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	●大切	B(推奨内容) D(独自基準)		3.0	0.20	-	-		
	2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	●大切	A'(全国版準用) B(推奨内容)		5.0	0.20	-	-		
	2.5	持続可能な森林から産出された木材	●自然	B(推奨内容) D(独自基準)		3.0	0.10	-	-		
	2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	●大切	A(全国版準用)		OAフロア、GL+PB	5.0	0.20	-		-
3 汚染物質含有材料の使用回避						3.3	0.20	-	-	3.3	
	3.1 有害物質を含まない材料の使用				有害物質を含まない建材を使用している	4.0	0.30	-	-		
	3.2 フロン・ハロンの回避					3.0	0.70	-	-		
	1	消火剤				-	-	-	-		
	2	発泡剤(断熱材等)				3.0	0.50	-	-		
	3	冷媒				3.0	0.50	-	-		
LR3 敷地外環境						-	0.30	-	-	3.2	
1 地球温暖化への配慮					LCCO2排出量を抑制している	3.4	0.33	-	-	3.4	
2 地域環境への配慮						2.9	0.33	-	-	2.9	
	2.1	大気汚染防止				3.0	0.25	-	-		
	2.2	温熱環境悪化の改善	●とも	A(全国版準用)		3.0	0.50	-	-		
	2.3	地域インフラへの負荷抑制				2.7	0.25	-	-		
	1	雨水排水負荷低減			公共交通機関の利用促進を実施	3.0	0.25	-	-		
	2	汚水処理負荷抑制				3.0	0.25	-	-		
	3	交通負荷抑制				4.0	0.25	-	-		
	4	廃棄物処理負荷抑制				1.0	0.25	-	-		
						3.2	0.33	-	-		3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止						3.0	0.40	-	-		
	1	騒音				3.0	1.00	-	-		
	2	振動				-	-	-	-		
	3	悪臭				-	-	-	-		
3.2 風害・砂塵・日照障害の抑制						3.0	0.40	-	-		
	1	風害の抑制				3.0	0.70	-	-		
	2	砂塵の抑制				-	-	-	-		
	3	日照障害の抑制				3.0	0.30	-	-		
3.3 光害の抑制						4.4	0.20	-	-		
	1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			光害対策ガイドラインチェックリストの過半を満たしている	5.0	0.70	-	-		
	2	屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策	●とも	B(推奨内容)		3.0	0.30	-	-		

記号凡例 ●:重点項目 ○:低炭素景観創出に係る項目

重点項目キーワード凡例 「大切」:大切に使う 「とも」:ともに使う 「自然」:自然からつくる